

渋谷区教育委員会

【中学校生徒数】
1,886名

【中学校数】
8校

【渋谷区の特徴】

- ・数多くの企業や商業施設、代々木公園等の自然豊かな場所がある。国内外を問わず多くの人々が渋谷を訪れ、活気にあふれている。
- ・平成29年9月より児童・生徒、教員に一人一台のタブレット端末を配備した。学校情報化先進地域。



【取組の目的】

○現状

- ・小規模校が多く、生徒は限られた部活動の中から部活動を選択しなければならない。
- ・教員は未経験の部活動を担当することがあり、生徒への指導に自信がもてない。

○目的

- ・教員の働き方改革を推進し、生徒にとって魅力ある地域部活動にするために、企業やスポーツ団体等と連携して多様多種の部活動の創設や経験豊かな部活指導員を配置する。

【取組の内容】

○サッカー教室の開催

- ・区立中学校の生徒を対象に、サッカー教室を開催する。講師には、プロのクラブチームの方々に協力を依頼し、年間10回の練習会を企画した。(コロナ禍により3回実施)

○アンケートによる意識調査の分析

- ・中学校全生徒を対象に、入りたい部、やってみたい活動等に関する調査を実施した。
- ・結果を分析し、今後立ち上げる活動の方向性を決める。

【今後の取組】

○ロールモデル部活動の構築

- ・サッカー部の地域部活動化をモデルにし、他種目の部活動改革を進め、部活動の指導を部活動指導員や地域部活動を担う団体への移行を推進する。

○生徒の興味関心に応じた多様多種の魅力ある地域部活動を創設していく。

○地域スポーツ活動を通じた地域コミュニティの活性化につなげる。

【取組の成果】

○生徒の変容

- ・所属する学校でサッカー部がない生徒、クラブチームの練習を体験したい生徒、将来サッカーに関わる仕事を目指す生徒にとってプロの指導者から多くのことを学ぶ機会となり、運動を楽しむ姿が見られた。

○地域部活動の拡充への模索

- ・合同部活動が困難とされるサッカー部を地域部活動として展開できたことで、あらゆる部活動の地域部活動化への可能性を見い出せた。

【具体的な内容】

○サッカー教室の開催

- ・区立中学校の生徒を対象に、サッカー教室を開催する。講師には、プロのクラブチームの方々に協力を依頼し、年間10回の練習会を企画した。(コロナ禍により3回実施)

○サッカー教室の様子

- ・区立中学校のサッカー部と地域のクラブチームと一緒に練習に取り組んだ。ミニゲームを行うなど実践的な練習も活発に行った。最初戸惑っていた生徒たちも、徐々に打ち解けていき練習にも熱が入っていた。



・サッカーの基本的な技術について、直接指導



石川直宏氏の話真剣に聞く参加者

○意識調査の分析

- ・生徒の希望する活動について、地域の協力が得られるよう団体等との調整を進めてきた。
- ・意識調査を基に、サッカーに加え8つの活動について立ち上げることにした。(ボウリング、ダンス、ポッチャ、将棋、パソコン、硬式テニス、フェンシング、女子ラグビー)

【具体的な成果】

○生徒の変容

- ・所属する学校でサッカー部がない生徒、クラブチームの練習を体験したい生徒、将来サッカーに関わる仕事を目指す生徒にとってプロの指導者から多くのことを学ぶ機会となり、運動を楽しむ姿が見られた。

○地域部活動の拡充への模索

- ・合同部活動が困難とされるサッカー部を地域部活動として展開できたことで、あらゆる部活動の地域部活動化への可能性を見い出せた。

- ・サッカー教室の参加者で記念撮影。楽しくサッカーを体験できた良い機会となった。



日野市教育委員会

【中学校生徒数】
4,265名

【中学校数】
8校

【日野市の特色】

- ・東京都のほぼ中心部に位置している。多摩川と浅川の清流に恵まれ、湧水を含む台地と緑豊かな丘陵をもつ、水と緑の豊かなまちである。
- ・土方歳三や井上源三郎が生まれ育った、「新選組のふるさと」であり、例年5月には「ひの新選組まつり」が開催されている。



【取組の目的】

- 現状
 - ・地域企業等と連携した部活動改革の推進
 - ・部活動指導員の配置
- 目的
 - ①地域運動部活動の実現可能性の実践研究
 - ・運営方法の課題抽出
 - ②持続的な地域運動部活動あり方の検討
 - ・運営方法、人材、財源の検討
 - ・運営受け皿の検討

【取組の内容】

- 1校1部活動での地域部活動の実施
 - ・教育委員会主催（運営委託）
 - ・休日の部活動において移行の実践
 - ・部活動指導員の活用
 - ・運営方法の課題抽出
- 検討・運営会議の設置
 - ・企画経営課、文化スポーツ課との連携
 - ・持続的な地域運動部活動あり方の検討
- 生徒・保護者・教員アンケート
 - ・実態調査
 - ・地域運動部活動の課題抽出

【今後の取組】

- 持続的な運営を行うための財源の確保
 - ・教育委員会主催の地域運動部活動の継続
 - ・保護者アンケート調査の実施（受益者負担の可能性調査）
- 受益者負担以外の運営財源の確保の検討
- 地域部活動の運営団体の立ち上げ
 - ・行政機関以外の地域部活動の運営団体設置
 - ・コニカミノルタ株式会社によるアカデミー立ち上げ
- 指導人材の確保・連携と多様な運営団体の可能性調査
 - ・地域企業・団体・大学との連携

【取組の成果】

- ①地域運動部活動の実現可能性の実践研究
 - ・運営方法の課題抽出（出席管理・体育施設の鍵開閉など）
 - ・コロナ禍における実施機会の減少
 - ・学校、教員との事前調整方法のノウハウ
- ②持続的な地域運動部活動のあり方検討
 - ・地域企業や団体の連携強化
 - ・行政機関以外の運営受け皿の可能性
 - ・庁内連携（横断的な事業展開）の可能性

【具体的な内容】

○ 1校1部活動での地域部活動の実施

- ・2021年12月から教育委員会主催にて休日の地域運動部活動を実施
- 【実施日】2021年12月25日～4回実施（中止3回）
- 【対象者】日野市立三沢中学校 女子バスケットボール部所属生徒
- 【参加者数】16名
- 【活動場所】該当学校体育館



○ 検討・運営会議の設置

- ・2回/年の検討・運営会議の実施
- 【日野市】教育委員会・企画経営課・文化スポーツ課
- 【学校】三沢中学校 校長・日野第二中学校 校長・三沢中学校 保護者
- 【団体・企業】日野市体育協会・コニカミノルタ株式会社

○ 生徒・保護者・教員アンケート

- ・生徒および保護者対象アンケート
- 【内容】地域運動部活動・運営に関する評価
受益者負担に関する調査等・教員対象アンケート
- 【内容】地域運動部活動に関する調査、部活動指導に関するニーズ調査等

【具体的な成果】

○ 地域運動部活動の実現可能性の実践研究

- 【成果】
 - ・保護者連絡と出欠登録にスマートフォン・アプリを使用
 - ・学校施設利用時の管理体制の整備
 - ・次年度以降の横展開に向けた指導人材・拠点校の可能性
- 【課題】
 - ・コロナ禍におけるオンライン指導等の対応
 - ・拠点校（部活動）の選定基準の明確化

○ 持続的な地域運動部活動のあり方検討

